令和７年３月３１日

令和６年度　特別の教育課程の実施状況等について

茨城県		
学　校　名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立鹿島小学校（外　10 校）	鹿嶋市教育委員会	公立

１．特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学　校　名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等
鹿嶋市立鹿島小学校	http://www.sopia.or.jp/kasyo/wp/%ef%bc%97%ef%bc%8e%e5%a4%96%e5%9b%bd%e8%aa%9e%e6%b4%bb%e5%8b%95%e3%83%bb%e5%a4%96%e5%9b%bd%e8%aa%9e%e3%81%ae%e5%ad%a6%e7%bf%92	http://www.sopia.or.jp/kasyo/wp/%ef%bc%97%ef%bc%8e%e5%a4%96%e5%9b%bd%e8%aa%9e%e6%b4%bb%e5%8b%95%e3%83%bb%e5%a4%96%e5%9b%bd%e8%aa%9e%e3%81%ae%e5%ad%a6%e7%bf%92

２．特別の教育課程の内容

（１）特別の教育課程の概要

これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第１学年及び第２学年の生活科 20 時間を外国語活動に替えて実施する。

（２）学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002 年には FIFA ワールドカップの会場地となり、2020 年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気　香る歴史とスポーツで紡ぐまち　鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

（３）特例の適用開始日

２００７年４月

２０１８年４月　変更

（４）取組の期間

２０３０年４月まで

３．特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（１）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

⊙計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

（２）実施状況に関する特記事項

（３）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

⊙実施している

・実施していない

＜特記事項＞

（１）第１学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかというと楽しい	どちらかというと楽しくない	楽しくない
84.0%	14.9%	0.0%	1.1%

② ALT と英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。			
楽しい	どちらかというと楽しい	どちらかというと楽しくない	楽しくない
88.3%	8.5%	0.0%	3.2%

③　英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになりたい	どちらかというと話せるようになりたい	どちらかというと話せるようにならなくてもよい	話せなくてもよい
87.2%	9.6%	2.1%	1.1%

④　外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかというと知りたい	あまり知りたくない	知らなくてよい
81.9%	9.6%	3.2%	5.3%

（２）第２学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかというと楽しい	どちらかというと楽しくない	楽しくない
90.8%	6.4%	2.8%	0.0%

② ALT と英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。			
楽しい	どちらかというと楽しい	どちらかというと楽しくない	楽しくない
82.6%	12.8%	2.8%	1.8%

③　英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになりたい	どちらかというと話せるようになりたい	どちらかというと話せるようにならなくてもよい	話せなくてもよい
84.4%	10.1%	0.9%	4.6%

④　外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかというと知りたい	あまり知りたくない	知らなくてよい
83.5%	11.0%	0.9%	4.6%

（３）教職員による評価

①　第１学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
80.6%	19.4%	0.0%	0.0%

②　第１学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
93.5%	6.5%	0.0%	0.0%

③　第１学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化（生活、習慣、行事等）に対する興味・関心が高まっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
77.4%	22.6%	0.0%	0.0%

④　第１学年及び第２学年からの外国語活動に期待することは何ですか。（自由記述）
・楽しみながら英語に触れられること。 ・グローバルな人材の育成につながること。 ・英語を「学ぶ」よりも「楽しむ」ことが大切で、ゲームや歌、日常のやりとりを通じて、自然に英語に親しみ、将来の本格的な英語学習への土台を作ること。 ・積極的にコミュニケーションを図りながら英語に親しみ、外国の行事なども取り入れながら楽しく活動すること。 ・日本以外の外国に対する興味・関心を引き出し、中学年以降の国際理解につなげることや、コミュニケーションのハードルを下げて楽しく話す活動ができること。 ・英語を楽しく学び、英語に対する隔たりがないようにすること。 ・英語を話すことを恥ずかしいと思う気持ちや、英語でコミュニケーションをとることへの不安感を少しでも減らすこと。 ・食べ物や伝統的な行事など、外国の文化に触れる機会があること。 ・英語や外国人や外国の文化に触れることへの抵抗感が芽生える前に、コミュニケーションの楽しさを味わうこと。 ・抵抗なく英語に親しむこと。 ・ALT との交流によるコミュニケーション力の向上と英語に慣れ親しむこと。 ・英語を嫌いにならずに、楽しく授業に取り組めること。 ・毎時間の楽しく会話に親しめる雰囲気作りと楽しい活動（歌やチャンツなど）。 ・英語で話す事へ慣れ親しむ機会の増加。

（４）保護者による評価

①　第１学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
46.5%	45.5%	5.1%	3.0%

②　第１学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
65.7%	30.3%	2.0%	2.0%

③　第１学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化（生活、習慣、行事等）に対する興味・関心が高まっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
50.5%	40.4%	5.1%	4.0%

④　第１学年及び第２学年からの外国語活動に期待することは何ですか。（自由記述）
・英語に対する嫌悪感の軽減、コミュニケーション力の向上。 ・外国語への興味が増えること。 ・生の外国語を話せる先生とのコミュニケーションの時間を充実させること。 ・１から学ぶことで、基礎を身につけられるので、日常から外国語を取り入れてもらうこと。 ・挨拶など身近な英語から楽しんでもらうこと。 ・幅広い世界観を持ってほしい。 ・ネイティブとの会話の機会を増やしてほしい。 ・苦手意識をもたずに楽しく学べる土台を作ってほしい。 ・英語を話すことへの恥ずかしさが生じさせないような工夫。 ・英語でコミュニケーションする事は、とても楽しいという気持ちを育てること。 ・色々な国の言葉がある事を知って言語から外国に興味をもつこと。 ・自己紹介などが出来るようになること。 ・アウトプットを多く取り入れ、英語を話すことに抵抗がなくなっていくこと。 ・早い時期から英語に触れることによって、基本的な語彙など自然に学ぶことができると思う。英語の音やリズムを楽しむことでリスニング力を養い、今後の学習のモチベーションにつながるような活動を期待する。 ・海外の方と、言語の壁に恐れることなく、コミュニケーションをはかれること。 ・自分の子が外国の人と挨拶しているのを見て、私は日本語で挨拶をしましたが、

子供は外国語だった。このように、日常的に使えたら、とてもいい社会になると思った。
・この先外国語を必要とする世代であると思うので、簡単なコミュニケーションが出来る位の外国語力がつくといいなと思う。

４．　実施の効果及び課題

（１）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

・身近な内容の単語や表現を学ぶことにより、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとしている。
・歌やチャンツを通して、英語特有のリズムを身に付けている。
・授業以外でも英語であいさつをしたり、簡単なやり取りを ALT と楽しんだりしている様子が見られる。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

昨年度の課題は、「バランス良く４技能を育成すること」であった。話す力の向上のために、毎単元で実施したパフォーマンステストに加え、英語でのやり取りを通して、児童が達成感を味わうことができるように、全国の ALT とオンラインで会話を楽しむ機会を設けた。

読む力・書く力の向上においては、音と文字のルールを取り入れた読み書き指導の実施に加え、６学年の２つの単元で、話したことを書き、書いた内容を友だち同士で読み合う活動を取り入れた。

聞く力においては、授業中に使用される表現や学習した内容であれば聞き取ることができるが、まとまった話や会話になると、内容把握が難しくなる傾向が英検 ESG のリスニング結果から読み取れる。このことから聞く力に課題が残ると言える。

５．課題の改善のための取組の方向性

聞く力に焦点を当てながら４技能をバランス良く育成するために、授業中の教師・ALT の英語の発話量を増やすことと、少し長めの英語を聞く機会を設け、分からない内容に直面した際の対応テクニックを指導していく。

話す力においては、「Small　Talk」の活動やパフォーマンステストの練習中に、既習表現の使用を児童自らが気付き、使えるようにするために、教師の発問を工夫していく。

読む力・書く力においては、引き続き音と文字のルールを取り入れた読み書き指導に加え、児童が意欲的に「読みたい」「書きたい」と思える学習目当てを考えていく。